建設通信新聞9月9日（金）に掲載されました

会社設立50周年というテーマで建設通信新聞社の取材を受け、紙面に掲載されました。

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN
建設通信新聞
Architectures,Constructions & Engineerings News(Daily)
2022年（令和4年）9月9日（金曜日）

水域環境全般でインフラ支える

テクアノーツ（飛島建設グループ）

アクアシステムエンジニアリング推進

設立50周年、信頼得てさらに成長

クローズアップ

不断水工法によるバルブ交換

三門社長

飛島建設グループのテクアノーツ（旧ノダック）は、ことし設立50周年を迎えた。潜水工事を核としながら、社会的ニーズに応える形で時代とともに、水中にとどまらず水域環境全般で社会インフラを支える「アクアシステムエンジニアリング」企業に成長した。今後も人材力や技術力を活用し、さらに社会から信頼される企業へと成長していく。

同社は、1973年に潜水業者として設立した。海市場ではなく内水面、特に上水道市場の開拓を進め、最上流のダム施設の更新市場にたどり着き、現在でも主力事業となっている。水を抜かずに潜水によるポンプ修理や浄水池の清掃、断水せずに配水池の清掃を行う不断水工法により、事業が大きく拡大した。

その後、特殊な水草刈取専用船（ウィードハンター）の製造・販売や、自らそのマシンを使っての効率的な水草刈取り、リムノロジーフェンス、フローティング噴水といった水環境製品などを開発し、潜水業からアクアシステムエンジニアリングへと業態を進化させた。

三門社長は「他社が目を向けない部分に着目し、課題を解決することでお客さまから信頼を得て、設立50周年を迎えることができた。機会を頂き、歴史を紡いできた先人の努力に感謝したい」と語る。

2018年には、飛島建設グループに参画した。三門社長は「飛島建設や他のグループ企業と協働し、100年に向けてアクアシステムエンジニアリングの道を切り開き、さらに社会から信頼される会社として成長していきたい」と力を込める。

飛島建設のインフラリニューアル、特にダム関連の複数の工事に参画するなど多方面で連携・協働している。営業情報などの共有で各社の顧客拡大を目指すほか、ノウハウを共有して業務効率化や働き方改革、ワークライフバランスの実現にもつなげる。

22年1月にノダックからテクアノーツに社名変更した。新社名は、水中工事の技術力（テクノロジー）と水（アクア）、ワンチームで挑戦する宇宙飛行士（アストロノーツ）の三つの言葉を合わせた造語から名付けている。関東発祥の同社は、関東以北への事業展開を加速するため、本社・関東事業所を埼玉県川口市に移転した。三門社長は、これらにより「新生テクアノーツが目指すべき会社の姿と方向性を社外に示すとともに、社員が再認識・共有することができた。心を一つにして、同じ方向に歩みを進めていくためにも、大きな効果がある」と話す。

さまざまな保有技術のうち、NETIS（新技術情報提供システム）の登録技術として、「マリンステージ」「工事用浮沈式通船ゲート」「プッシュオープン式通船ゲート」「一体化ガイドレール式水位追従型係船設備」があり、国や地方自治体、民間の工事で数多くの採用実績を持つ。

DX（デジタルトランスフォーメーション）化による作業性・安全性向上にも目を向け、常に先を見据えて技術開発や既存技術をブラッシュアップする。新たな取り組みでは、水環境技術における持続的な社会を目指して環境問題の改善技術に挑戦する。22年度から、設計部門内にあった開発部門を研究開発部として独立させ、研究開発を強化している。三門社長は「飛島建設や他のグループ会社が持つ高い技術力も借りて、連携しながらスピード感をもって進めていきたい」と語る。

現在、潜水士の有資格者が80人以上在籍している。このうちの半数近くは現場作業に当たっているほか、その経験を生かして営業・設計などの業務を担当している。

業績は順調に拡大しており、さらなる事業拡大に向けては人材の確保や育成が課題となる。新卒入社時の教育の充実や継続的な育成教育計画の策定・実施を進めているほか、キャリア採用も計画的に実施し、優秀な人材を確保・育成している。

マリンステージ

水草刈取専用船（ウィードハンター）

テクアノーツのNETIS登録技術

▷マリンステージ　堅固な浮体力を有し、水中作業をせずに設置や連結、設置後の点検ができる、安全性や安定性を高めた連結式水上足場。

▷工事用浮沈式通船ゲート　流木止設備に使用するフロート内に空気量調節が可能な装置を内蔵し、その調整でフロートを浮沈させ、大型船でも簡単に流木止を通過できる浮沈式通船ゲート。

▷プッシュオープン式通船ゲート　開閉時に動力を使用せず、手動で作業する必要もなく、船でゲートを押し開くことでロックを解除でき、作業性と安全性を高めた半自動式通船ゲート。

▷一体化ガイドレール式水位追従型係船設備　2本のガイドレールを一体化して、現場据付時の手間を大幅に削減するほか、高い据付精度を確保でき、設備の低コスト化と設置工事の工期短縮を実現したガイドレール式係船設備。

Aqua System Engineering

ENGINEERING & CONSTRUCTION TOBISHIMA Group　　TEQUANAUTS